

『エルゼビア共催オンラインセミナー（2021.12.17開催）でのQ&A』

【1】 佐々木景子様（エルゼビア社）のご講演に対して

<質問1> Preprintの扱いについて

<回答1> とくに新型コロナ禍での研究論文が増加した中でPreprintの位置付けはめまぐるしく変化してきました。Preprintに掲載するにも審査されることもあります。Preprintを公開する選択肢も以前よりは広がっています。最新で早期の研究結果が公開されるため、その学術領域における知見を研究者はいち早く得ることができるという面では、学術にとって大変重要なプラットフォームです。フィードバックにより改訂を上げることもでき、履歴を閲覧できるものもあります。またいくつかのPreprintからはジャーナルにそのまま投稿できるものもあります。DOIが付与されることにより、他の研究者がPreprintを参考文献として引用できるようになり、Preprintの扱いはジャーナルによってもポリシーが異なるので、投稿の時はジャーナルの投稿規定を確認することは重要です。公開した研究についての先取権を確立することができますが、Preprintを公開すると、他の研究者に自分よりも先にジャーナルで公表されてしまう可能性があることを懸念することも聞かれます。定義上、正式な査読を受けていないことから正式な学術論文としては扱われませんが、Preprintの扱いに関しては、日々変化し、さらに影響力も大きくなると思うので、利用する研究者が自身の論文をしっかりと管理して、投稿する側も読む側も利用について理解を深めていくことが必要となると思います。

<質問2> ハゲタカジャーナルの見分け方について

<回答2> ハゲタカジャーナルの見分け方としては、信頼のおける大規模学術文献データベースでインデックスされていることです。例えば、PMC, Medline, Scopus, DOAJ, Web of Scienceといった文献データベースに掲載されていることや、Journal Impact Factor, CiteScoreが付与されていることを確認することです。また、ジャーナルのホームページを見て、しっかりと所属機関などが掲載された編集委員のリストがあること、ジャーナルのインサイトについて記載されていることなどを確認することで、ハゲタカなのか、正当なジャーナルなのかを確認することができます。

<質問 3> SNS を使った論文のアピールの仕方について

<回答 3> 一例ですが、出版した論文を Twitter などでプロモーションする場合（日本人を対象とした場合）は論文タイトルを日本語に訳してみたり、論文内容を簡潔に日本語でまとめ、論文のリンクと一緒に掲載するなどの方法があります。論文に Figure や Table がある場合には画像（リンク）と一緒に掲載することで、閲覧者にインパクトを与えることができます。出版、公開された論文の共有に関する方針は、購読論文(subscription)と Gold Open Access 論文で異なりますので、下記のサイトより、ご自身の論文の著作権等を確認ください。Journal of Orla Biosciences に掲載された論文のプロモーションには Share Link を推奨いたします。詳しい論文の共有につきましては、下記のサイトをご参照ください。

Tweets with Share Links:

<https://twitter.com/search?q=authors.elsevier.com%2Fa%2F>

論文の共有について：

<https://www.elsevier.com/about/policies/sharing>

Share Link について：

<https://www.elsevier.com/authors/submit-your-paper/sharing-and-promoting-your-article/share-link>

【2】 大島勇人先生のご講演に対して

<質問 4> One Sentence, One Meaning がよいとされているが、この方法に従うと論文がぶつ切りになり短文が並ぶのみで読みにくくなる。実際の論文作成ではどの様に考えればよいか？

<回答 4> ACS スタイルガイド ~アメリカ化学会論文作成の手引き~ (中山裕木子 訳；以下、ACS スタイルガイド)では、短い平叙文を複数書いてからつなげるほうが良いとされています。シンプルな平叙文は最も明確であり、書きやすく、読みやすいからです。しかしながら、ご質問の様に論文がぶつ切りになり読みにくくなるのも事実です。

ACS スタイルガイドでは、単文のままで完成形にするのではなく、適切な接続詞を用いて、単文を複数組み合わせることで重文をつくったり、単文に従属節を加えることで複文をつくり、論文がぶつ切りにならない様にするのを薦めています。

適切な熟語を用いることも重要です。ACS スタイルガイドを勉強して、例えば「compared to」と「compared with」で意味が異なることを学びました。この利用法の間違いは過去の英文校閲で修正される機会があったのですが、英文校閲者の好みによるものと勝手に解釈していました。英文校閲者もスタイルガイドを基に正しい熟語の利用法を勉強していることを知りました。

ACS スタイルガイドの翻訳者の中山裕木子さんは、著書の中で「英語はロジカルな言語」であると述べています。中山さんの著書を勉強するまでは、「英語はファジーな言語」であると勘違いしていましたが、英語には「読み手が迷わないように書く」というまっすぐな指針が存在することを知りました。

<質問 5> 記載解剖学のようなデータを示すことの重要性と論文の簡潔性との整合性について

<回答 5> 私も解剖学者でありますので、事実をありのままに正確に記載する（個々の形態学的事象を整理し系統立てる）「記載解剖学」の重要性を理解しております。一方で、読者の視点に立つと、大量のデータを理解することは簡単な事ではありません。読み手の視点に立つと、できるだけ簡潔性が求められます。

昨今のオンラインジャーナルの利点として、Supplementary data の利用があげられます。論文本文をできるだけ正確、明確、簡潔に書くことに留意し、重要な専門データは Supplementary data として提示できますので、整合性をとることは可能だと思います。

ACS スタイルガイドでは、Introduction は1つか2つのパラグラフで記載するという指針が示されています。私は、Introduction は研究の背景が簡潔にまとめられているので、過去の論文を読む際に、十分な情報量が含まれている Introduction は大変勉強になったことから、これまで3つのパラグラフ位の中に必要十分な情報を盛り込んできました。読み手の視点に立つと、この点も再考する必要性を感じています。